

静岡県の気候変動影響と 適応取組方針の策定



現状

・平成27年3月

「<改定版>ふじのくに地球温暖化対策実行計画」(本県の区域施策編)に「第7章
適応策」として、今後、具体的な適応に取り組んでいく旨を記載。

・平成28年度

府内において「研究会」を開催し、課題を共有

・平成29年4月

府内組織である静岡県地球温暖化対策推進本部に「適応策推進部会」を設置

・平成29年7月～9月

本県における気候変動影響に関する文献の収集・整理(委託)

・平成29年11月～平成30年3月

適応策推進部会・担当者会議:「気候変動影響」の内容確認・修正

・平成30年4月～現在

適応策推進部会・担当者会議:「気候変動適応取組方針」(案)の確認
(11月～12月:パブリックコメントの実施)

・平成31年3月

地球温暖化対策推進本部:「気候変動適応取組方針」の決定(予定)

※法定計画として位置づけ

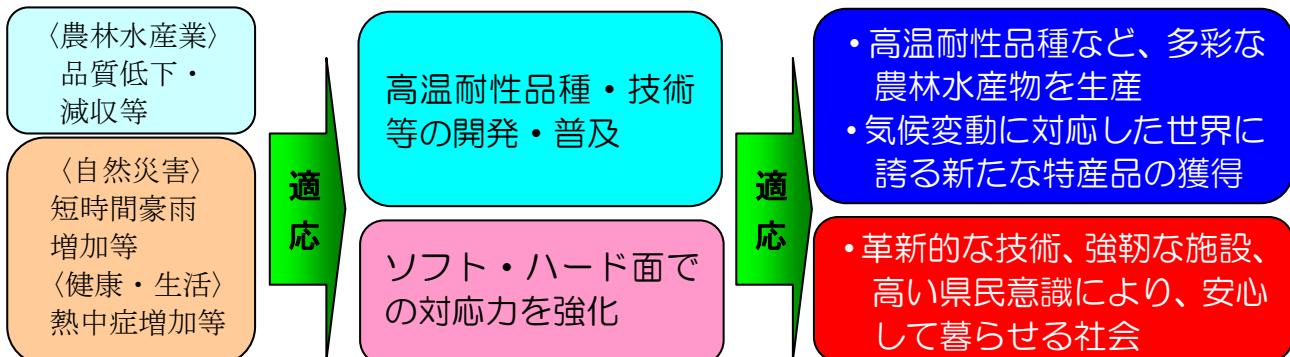
しづおかの挑戦。

適応方針の基本方向

目的:

気候変動の影響による将来の被害を可能な限り軽減し、経済・社会の持続可能な発展を図る。

予測される影響（一部）



富国有徳
しづおかの挑戦。

3

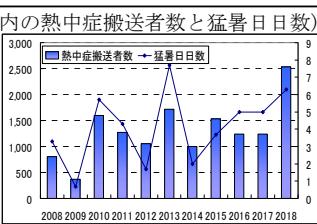
県内の気候変動の主な影響と適応（農林水産業）

項目	主な影響	主な適応策
水稻	・品質低下 (白未熟粒等発生、一等米比率低下)	・高温耐性品種「にこまる」「きぬむすめ」普及
野菜	・ワサビの株の腐敗	・高温・渴水耐性を持つ品種の育成・普及
果樹	・ウンシュウミカン浮き皮の発生 ・品質・貯蔵性低下 (浮き皮が発生した温州みかん) (21世紀末の栽培適地予測) RCP8.5 	・高温耐性品種の開発・普及 ・長期貯蔵技術の開発・普及 (開発中の貯蔵性が高い 超晩生温州みかん系統) (LED光や紫外光を活用した 貯蔵性向上技術)
茶	・干ばつによる葉枯れ等で翌年一番茶が減収した事例あり ・茶芽生育、一番茶の萌芽期・摘採期早まり	・夏の異常高温・干ばつ対策としてかん水技術の普及 ・春の遅霜対策として防霜技術の普及
水産業 (増養殖等)	・藻場の構成種の変化 ・暖海性の植草性魚類からの海藻への食害により、サザエ・アワビ等の生育に影響 	・藻場造成の支援 ・植草性魚類や雑藻駆除の支援

富国有徳
しづおかの挑戦。

4

県内の気候変動の主な影響と適応(生態系・災害等)

項目	主な影響	主な適応策
生態系 (高山)	<p>・富士山への維管束植物侵入、 コケ類等の衰退 ・南アルプスの生態系の衰退</p> 	<p>・ニホンジカの食害防止や外来種防除などの保護対策推進 ・保護対策の担い手の育成</p> 
野生鳥獣	<p>・積雪の減少により、ニホンジカの分布拡大 ・中山間地の農作物への食害</p>	<p>・有害鳥獣の個体数調整や狩猟規制の緩和 ・ICTを活用した罠いわな等の試験研究成果を導入し、総合的効果的な被害防止対策推進</p>
河川・ 土砂災害	<p>・局地的豪雨による災害の発生リスク増加 ・強い台風の発生割合の増加</p>	<p>・関係機関・地域住民が一体となった、ハード・ソフト対策を組み合わせた総合的対策</p>
暑熱	<p>・熱中症搬送者数の増加 [2018年搬送者数] 2,528名 (過去最多)</p> 	<p>・ホームページ、チラシ、同報無線などを活用した熱中症の注意喚起 ・社会総がかりの緑化活動推進により、ヒートアイランド等を低減</p>
経済	<p>・電力需給のピークの先鋭化 (冷房ピーク増・暖房ピーク減)</p>	<p>・太陽光発電や蓄電池との併用によりエネルギー管理の高度化及び効率的な需給調整システム(地産池消型VPP)の構築</p>

富国有徳
しづおかの挑戦。

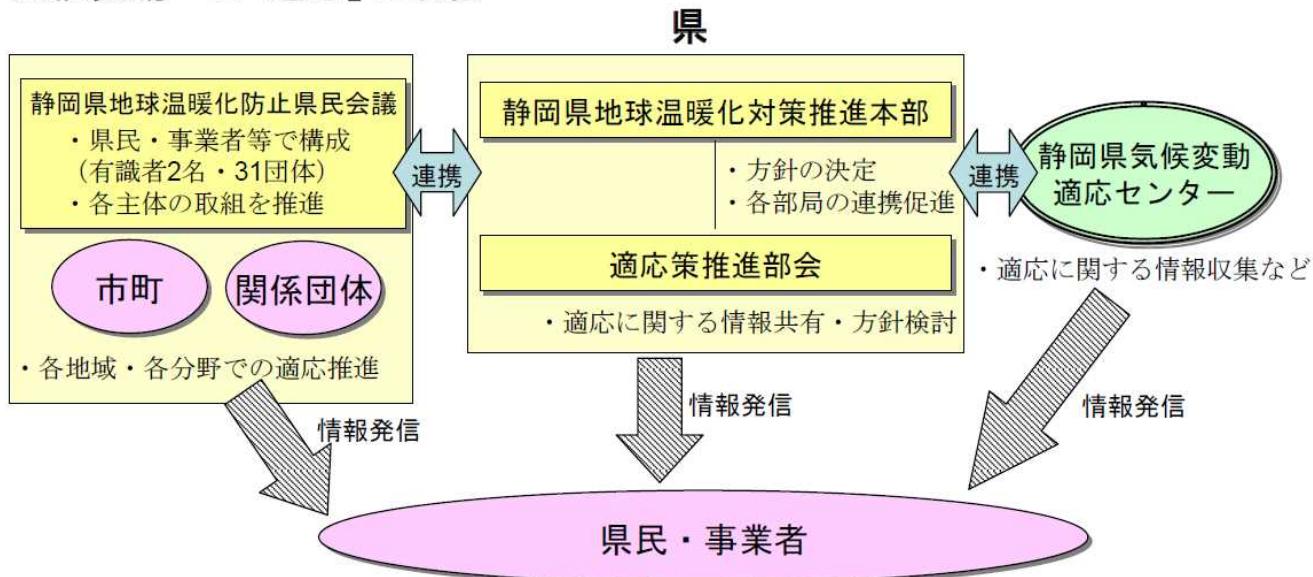
5

取組方針の推進体制

庁内外での連携により

- ・分野横断的な適応取組を推進
- ・県民・事業者の適応取組を促進

気候変動への「適応」の取組



6